

列島

いんふぉめーしょん

PLUS

月刊公論ならではの視点で集めた、日本全国からの情報と世界からの話題をお届けします。

北海道 ● 化石は新種のアザラシの仲間

足寄町 足寄動物化石博物館は、1991年浦幌町の川で発見された骨の化石がアザラシの仲間の新種であると確認した。海洋哺乳類「アロデスムス」の新種で、アイヌ語の浦幌町にちなんで「アロデスムス・ウライポレンシス」と命名。ちなみに「ウライポロ」とは大きな魚がいつも集まる場所の意味。約1000万年前

に絶滅したとされるが、1991年に発掘されたものは約1500万年前のオスの個体。ほぼ全身の骨が見つかった。体長約2m。日本では茨城、新潟、石川、長野の4県で発掘されているが、浦幌町のが国内最古、かつ最北。

青森 ● 田んぼアートを見てね

田舎館村 水田をキャンパスに緻密な絵や文字が描かれ、海外メ

ディアにも評価されてきた田舎館村

の「田んぼアート」。「風と共に去りぬ」、「シン・ゴジラ」、「ヤマタノオロチとスサノオノミコト」などが田んぼを彩ってきたが、2018年のテーマは「ローマの休日」と、鉄腕アトムやリボンの騎士などで知られる「手塚治虫キャラクター」。田んぼには展望台が設けられ、6月中旬から10月初旬まで見学可能。見頃は7月下旬から8月中旬。5月には同村の中学生が東京台場の「アクアシティお台場」でタブレット端末を用いてPR活動を行なった。

岩手 ● 大迫町ワイン 女性だけのコンクールで金賞

花巻市 女性だけのワイン鑑定人や醸造家による「フェミニナリーズ世界ワインコンクール」が4月フランス・パリで開催、花巻市大迫町のエーデルワインが展覧したワイン「ドメーヌ・エーベル ツヴァイゲルトレーベ2015天神ヶ丘畑」が金賞を受賞した。先進国ではワインの購入の70%以上を女性が占め、今回の受賞は女性から愛されるワインの証となった。コンクールは今年で12回目。大迫町で栽培された2015年

産のブドウを用い、甘い香りと渋みのある赤ワインに仕上がった。授与されたワインは6月より県内の酒販売店で販売される。

秋田 ● ピンク旋風巻き起こるBリーグ

秋田市 Bリーグ放送でも試合中継されるなど年々盛り上がりを見せるプロバスケットボールのBリーグ（B1とB2の2部制）。CANアリーナ★あきたをホームとする「秋田ノーザンハピネッツ」が2017-18のシーズンで準優勝し、見事B1への昇格を決めた。福岡に敗れ優勝は逃したものの、秋田県初のプロスポーツチームの快挙にファンは沸き返った。高校バスケットの名門「能代工業」があることから、県はバスケットが盛んで、チームカラーのピンクを身にまとったファンが毎試合アリーナ全体を覆う。「クレイジーピンク」と呼ばれる秋田ブラスターの応援ぶりは熱狂的で、その熱さは36クラブ中、日本一と称されるほど。

山形 ● ナスカの地上絵がサトイモ畑に

山形市 現地では新しい地上絵も発見された「ナスカの地上絵」。こ

の世界遺産を描くプロジェクトが今年も5月14日から実施。昨年の「ハチドリ」に続き、今年挑戦するのは「コンドル」。実物のコンドル135mの大きさをサトイモ畑の大きさに合わせて、3分の2サイズで作る。さとう農園の佐藤卓弥社長が山形名物のイモ煮の食材であるサトイモの魅力を世界に発信しようと、企画したもの。山形大学の教授で「ナスカの地上絵」の研究者である坂井正人氏の協力も得る。サトイモは9月に収穫予定。

●宮城● まちづくりで国土交通大臣賞に輝く

女川町 「女川駅前レンガみち周辺地区」のまちづくりの功績が認められ、女川町に平成30年度の「都市景観大賞」の最高賞である国土交通大臣賞が授与される。東日本大震災からのまちづくりを、女川町や地元各組織が結束してスピーディに取り組んだ結果、女川町から海へと続くレンガの遊歩道と町並み、開放感あるデザインが高く評価された。中心となる駅舎には温泉施設と展望デッキ、休憩室などが設けられ、ほかにも多目的ホールにも活用でき

る交流館、25以上の店舗が集まるシーパルピア女川、女川の水産業を体験してもらうための体験館、地元の水産加工品やスイーツを販売する地元市場ハマテラスなどから構成される。面積は6・6ヘクタール。

●福島● 新酒鑑評会で福島県産酒6年連続日本一

福島県 2017年酒造の新酒鑑評会で、福島県産の酒19銘柄が「金賞」に選ばれ、史上初の6年連続金賞銘柄最多数を獲得、福島県の酒造技術の高さ、品質の良さの証となった。全国から850点が出



女川駅から海へと続くまちづくりが高く評価された

品、金賞232のうち福島県産は31。なかでも東日本酒造協同組合の「奥の松」が県内最多の15度目の金賞を受賞。福島の酒は、2015年ロンドンで行われたインターナショナル・ワイン・チャレンジ（IWC）でほまれ酒造の「会津ほまれ 播州産山田錦仕込み 純米大吟醸酒」がチャンピオン・サケに輝き、世界が認める「SAKE」となっている。

●栃木● 関東一の人気ご朱印。『平成』入りもあと1年

鹿沼市 パワースポット巡りも兼ね、ご利益や開運アップを求めて空前のご朱印ブームとなっている。今、関東で抜群の人気を誇る古峯神社のご朱印。同神社は天狗の面が奉納されていることから、天狗をあしらったご朱印が有名。天狗の絵柄が約25種類あることも理由の一つ。来年5月に元号がかわることから、今年にはご朱印ガールたちが詰めかけている。30年近くにわたって親しんできた「平成」の文字を入れてもらえるのもあとわずか。

●茨城● eスポーツが2019年の茨城国体に合わせて開催

茨城県 世界的な大会も頻繁に

開催され、賞金総額が数億円規模にまでに成長したeスポーツ（エレクトリックスポーツ）が、2019年茨城国体・全国障害者スポーツ大会の文化プログラムの一つとして実施される。都道府県別対抗のeスポーツ国内規模の大会はこれが初。eスポーツはコンピューターゲームやテレビゲームをスポーツ競技として捉えたもので、世界の競技人口は1億を超える。プロリーグも存在し、イベントの数も上昇中。国体で採用されるのは「ウイニングイレブン」のサッカーゲーム。大井川知事は「科学技術立県の茨城としてのイメージもアピールしたい」と意気込む。

●群馬● ぐぐつとぐんま観光キャンペーン2018

群馬県 ぐぐつとぐんま観光宣伝推進協議会は今年も群馬観光のPRを強化し、集客を図る。全国の主要駅1000ヶ所にポスターを掲示、7・9月のキャンペーン期間中は道の駅での「夏すぎ焼き」体験、下久保ダムの放流イベント、世界文化遺産の「富岡製糸場と絹産業遺産群」と昨年ユネスコの「世界の記憶」に登録された「上野三碑」

をめぐる交通機関のバス、群馬の名産品を提供する「食」の特別列車の運行などを企画している。ちなみに同県ゆゆるキャラぐんまちゃん、2014年のゆるキャラグランプリで1位に。

千葉 ● 高齢者活用相談窓口の開設

千葉市 千葉商工会議所は人材活用されていない60歳以上の高齢者を対象に、地元の中小企業、小規模事業者へ就職促進のため専用窓口を設けている。商工会議所としては全国初の試み。総合人材サービス会社「パーソナルテンプスタッフ(株)」と提携、週2日専門の担当者

者を配置し相談に応じるほか、受け入れ企業の開拓、企業と求職者のマッチング、セミナーなどの広報活動を展開。県内の若年層は東京の企業へ流入が多く、県内の中小企業は人材不足に陥っている。この解消が目的。年齢のほかに千葉市内への就職希望者が対象となっている。

埼玉 ● カードラリーで体験&記念品をゲット 秩父鉄道

埼玉県 秩父鉄道ではカードラリーを5月19日から12月9日までの間、羽生駅～三峰口駅間の沿線を実施する。参加者は駅に置かれているチャレンジパンフレットをもらい、チェックポイントで博物館見学や自然体験をし、グルメポイントなどを回ると30種類以上の「秩父カード」をゲットできる仕組み。カードの枚数に応じてSLチョロQ、トートバッグなどの記念グッズにも交換できる。SL乗車体験や長瀬ラインくんだり、また期間中に開催されるイベント参



秩父鉄道 カードラリー記念品の一つSLチョロQ

加でもカード入手が可能。鉄道の乗車に合わせて沿線の魅力を体験して、地域活性化につながるのが目的。

東京 ● 日本航空 中距離国際線のLCC設立

品川区 日本航空は5月14日、国際線の中長距離LCC（ローコストキャリア）設立を発表。成田国際空港を拠点とし2020年夏よりアジア・欧米などへ就航する。機材はボーイング787-8型を2機使用。これまで同社出資のジェットスター・ジャパンが国際線短距離路線を運航していたが、新会社を設立させ、LCCの飛んでいなかった中長距離エリアの新たな需要獲得に努める。787型の飛行範囲は約1万3000km、これは東京を起点にヨーロッパ全域や中東、フロリダなどを除く北米を包括する広範なエリア。日本政府は2030年度に訪日外国人数を6000万の目標を設定しているが、その一翼を担うことも目的としている。

神奈川 ● 川崎駅西口開発計画、2020年春ホテル開業へ

川崎市 川崎駅西口開発計画を進める東日本旅客鉄道株式会社は

5月18日の起工式を経て、本体建設工事に着手した。地上29階のオフィス高層棟、地上5階のオフィス低層棟、地上16階のホテル棟から構成。非常用発電機や災害に強い中圧ガスによるガスコージェネレーションシステムを導入、停電時にも主要設備のほか、専用部に電源供給など72時間以上の電力が賄える。2020年春開業予定の「ホテルメトロポリタン川崎（仮称）」は約300室、時間帯に合わせたメニューとダイニングスペース、ミーティングスペースを提供、またロビーでは「音楽のまち川崎」の発信拠点としてイベントも企画される。全体の完成は2021年の見込み。

新潟 ● 佐渡島で自転車のロングライド大会開催

佐渡市 2018年で13回目を数える「佐渡ロングライド210」大会（佐渡市などが主催）が5月20日、佐渡島全域に渡って実施。3000人を超えるサイクリストたちが参加、45～210kmを走る4つのコースを駆け抜けた。同大会は国内最大級で、リピーターが多いのも特徴。佐渡島全域を走る210km

のコースは、完走の目安が7〜12時間、100km以上の大会完走実績がないと参加できないハードなもの。変化に富んだ景色もさることながら、エイドステーションの充実ぶりも好評で、バナナやオレンジなどの果物はもちろん、パンやおにぎりに加え、スイーツステーションも設けられている。

●山梨 キャンプ地が人気ア ニメの聖地に

身延町 2018年初めに放映された「ゆるキャン△」は、キャンプ好きの高校生を中心に友達との日常生活やキャンプサークルの活動が描かれたTVアニメ。その舞台が山梨県身延町のキャンプ場や身延町の商店街であったことから、身延は聖地巡礼の場となっている。第1話で登場した「本栖湖浩庵キャンプ場」は目の前の本栖湖を挟んで富士山の見える場所に位置することから、訪問客が一気に増加。第8話ではJR身延駅と駅前のしょうにん通り、名物のみのぶまんじゅうの店も登場し、アニメそっくりの町並みに感動するファンも多い。6月初めまでスタンプリーも開催、山梨県の観光

ウェブサイトでもモデル地やモデル地を巡るコースを紹介。

●静岡 グランドピアノの音 がどこでも楽しめる

浜松市 持ち運び可能な電子ピアノ製造のヤマハが、さらに音質の優れた電子ピアノ「P-125」を発売。幅1326mm、奥行き295mm、重さ11・8kg、色はブラックとホワイトのふたつ。新スピーカーを採用、前モデルに比べ自然なタッチも特徴で、さらにスリムに洗練されたスタイル。また、ポップ&ロック、ジャズ、ラテンなど20通りのリズムが選べ、両手で演奏をするとそのコードにあったベース音も鳴る。無料アプリをダウンロードすればスマートフォンやタブレット端末などでも操作することも可能。

●長野 車窓とワイン5種、 料理に舌鼓

上田市 しのの鉄道株式会社では信州アフターディスプレイーションキャンペーンに合わせ(株)メルシャンの協力を得て、夏にワインと料理、車窓を楽しむ列車を走らせる。同社の観光列車「ろくもん」が同鉄道上田駅とJR塩尻駅間を約2時間半で

結び、車内では信州の食材をつかった料理とシャトー・メルシャンが選んだ長野ゆかりのワインが提供される。料理は懐石料理の和食とイタリア料理の洋食のふたつのコースから選べる。運行は7月8日と8月5日。代金は1人2万1600円で、鉄道運賃、食事代、アルコールを含む飲食代、みやげ、軽井沢・長野フリーきっぷ代が含まれる。予約はろくもん予約センターでTEL・0268-29-0069(10時〜17時。日・祝日は除く)。

●岐阜 美濃和紙でできたマ スキングテープ

美濃市 かわいらしい絵柄や模様、跡が残らず貼れることで、若い女性を中心に人気のマスキングテープ。美濃和紙を扱う市内の松久永助紙店が美濃和紙のマスキングテープを発売した。薄く、強く、ムラのない美濃和紙の特徴がそのまま活かされた紙のテープは、五平餅や富有柿などの岐阜の名物と、白川郷や長良川鵜飼など岐阜の四季が描かれた2種類。JR岐阜駅に隣接する商業施設「アクティブG」にある県内の名産品を扱う「THE GI



美濃の名物や四季が描かれた美濃和紙のマスキングテープ

FTS SHOP」や同社のウェブサイトで販売する。価格は岐阜のえもん432円、岐阜の四季648円。

●愛知 徒歩帰宅者支援向け サービスを締結

愛知県 同県は南海トラフ巨大地震発生に備え「帰宅困難者」対策にトヨタ系販売事業会社とその支援事業会社などを傘下に置く(株)ATグループと「災害時における徒歩帰宅者支援に関する協定」を締結。地震発生時に同社傘下の自動車販売店など257ヶ所を徒歩帰宅支援ステーションとし、水道水、

トイレの支援、またラジオなどを通じてメディア情報や道路情報を提供する。これまでも地域のコムビニチェーン、ガソリンスタンド、日本郵便株式会社など7480店舗がすでに指定され、今回の締結でその数は7700を超える。支援可能な店舗にはステッカーが掲出される。

●富山 ●「ジャポニカ学習帳」高山新工場落成

高岡市 「ジャポニカ学習帳」でおなじみのショウワノート株式会社の新工場が完成、5月18日に落成式が挙行された。水平開きノートを製造する新ラインが導入され、生産量が3割増となる見込み。2階には通路が整備され1階の工場を見学することも可能。また、3階には「ジャポニカ学習帳」の表紙の変遷を見せるタイムトンネルが設けられ、6月から工場見学ツアーも受け付けるなど、新しい利用者の取り込みに期待がかかる。

●石川 ●戦後初の国産機YS-11能登へ

輪島市 日本の空を約40年にわたって飛行した国産機YS-11。エアロラボ社所有の同機が5月11日

高松空港を飛び立ち、午後4時過ぎに能登空港に着陸、その勇姿を見ようと大勢の人が訪れた。YS-11は日本のメーカーが戦後製造したプロペラ双発機で、1965年4月に羽田―徳島―高知線で就航を開始。2006年まで日本を飛び続けた。着陸したYS-11を受け入れたのは学校法人日本航空学園の能登キャンパス。同学園はすでにYS-11を実習用に保有、飛来したYS-11を約1年にわたって保管する。

●福井 ●鉄道車両「キハ28形」6月に一般公開

敦賀市 敦賀市は昭和36年から平成11年まで小浜線の急行「わかさ」として実際に走っていた気動車「キハ28形」を購入、鉄道遺産の拠点を目指す金ヶ崎の敦賀赤レンガ倉庫で6月中旬に公開する。購入のきっかけは昨年の「敦賀鉄道フェスティバル」。国鉄色のキハ28形は鉄道ファンに最も人気の高いディーゼル車といわれ、その姿を懐かしむ人々にぎわった。また、前年を大きく上回る来場者数も記録。6月からの公開で誘客とさらなる効果が見込まれる。

●三重 ●クレジットカードや飛行機のマイルがマイナンバーカードのポイントに

津市 津市ではマイナンバーカードの普及を目的としたポイント活用事業の一環として、クレジットカード会社などのポイントや航空会社のマイルなどを「津市自治体ポイント」に交換し、買い物に使えるサービスを開始した。協力する企業はクレジットカード会社、航空会社、電力会社NTTドコモなど計14社。「津市自治体ポイント」のポイントやクレジットカードを用いて全国の名産品を購入できる。5月からは全国の「めいぶつチョイス」に松阪牛のすき焼き用牛肉、煎茶のセット、ジビエ餃子など津市の特産品も加わり、全国で津市の特産品がポイントと交換可能となった。自治体ポイントを利用するには、最初にマイナンバーカードを取得し、IDキーの登録が必要。

●奈良 ●聖徳太子ゆかりの宮寺跡が史跡公園に

斑鳩町 中宮寺は聖徳太子が母である穴穂部間人皇女のために建立した尼寺。寺は17世紀に現在の場所に移転したとされるが、建立は7世

紀前半の飛鳥時代と言われる。発掘調査の結果、寺跡に金堂と三重塔が立っていたことがわかり、礎石などが再現、整備されて史跡公園が完成した。竣工式が5月13日に行われ、中村和夫町長があいさつ。法隆寺や法起寺、法輪寺の塔などを見渡せる場所にあり、ベンチも設置され、車椅子でのアクセス可能。歴史散策のちょうどいい休憩場所になりそうだ。

●滋賀 ●損保ジャパンとSDGs普及に向けて連携

滋賀県 同県と損保ジャパン日本興亜株式会社は、滋賀県主催のSDGsの普及に向けた包括的連携協定を締結した。SDGsとは、2015年9月の国連サミットにて全会一致で採択された「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会実現のための国際目標で、Sustainable Development Goalsの略。今後、同県が主催する講演やワークショップに際し、損保ジャパン日本興亜が講師の派遣やノウハウの提供を行い、すべての人が幸せに生きていく持続可能な滋賀づくりの推進、地域活性化、県民サービスの向上に取り組む。

●京都● 阪急電鉄インバウンド施策に烏丸に観光案内所

京都市 阪急電鉄では急増する訪日外国人旅行者に同電鉄を利用してもらうための施策を発表。「烏丸駅」西口を改築し観光案内所の新規オープン、京都線特急車両9300系などにWi-Fiを導入、自動外貨両替機の駅設置、駅での案内を円滑にするためタブレット端末に翻訳アプリを搭載する。烏丸駅は京都市営地下鉄やバスなどの乗り換え地点であり、スムーズな乗り換えが可能なよう案内板の設置も計画。観光案内所は2018年度中に開所予定で、4ヶ国語に対応、観光・交通案内のほか、阪急電鉄オリジナルグッズの販売や、手荷物の一時預かり、荷物の全国発送サービスも提供。

●大阪● ラッピング機で万博誘致をPR

大阪府 2025年の万博を誘致する大阪府は、ピーチアビエーション株式会社と協力、5月より万博誘致のロゴ入りのラッピング機「万博特別機」が運航した。機材はエアバス320型で、後方に誘致の

ロゴがあしらわれている。空港内の自動チェックイン機もロゴが付き、客室乗務員と地上係員が誘致ロゴのバッジを着用するなど、11月の開催地決定に向け、空飛ぶ広告塔として国内、アジア各都市へのPRに活躍する。大阪万博は大阪市此花区の人工島・夢洲での開催が計画されている。

●和歌山● 「稲むらの火」日本遺産に認定

広川町 安政元年（1854年）11月5日発生の安政南海地震の際、広村（現在の有田郡広川町）の濱口梧陵が自分の田の稲に火をつけ、村人を高台に向かわせ、津波の被害から多くの人を救った逸話は全国的にも知られるストーリー。文化省は5月24日、「『百世の安堵』〜津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産〜」を日本遺産に認定した。梧陵が築いた「広村堤防」、村人が避難した「広八幡神社」など同町の26の史跡や文化財などが構成される。この話は小泉八雲が「A Living God（生ける神）」として著した。また、国連が創設した「世界津波の日（11月5日）」の由来にもなっている。

●兵庫● PAに丹波地どりの親子丼が初登場

丹波市 北近畿豊岡自動車道の水上パーキングエリアの食堂「いづく茶屋」で、地元丹波地どりを使った親子丼が味わえる。丹波地どりは、放し飼いの鶏舎で時間をかけて飼育されるなど、深い味わいが特徴で、卵も濃厚だ。水上PA親子丼も肉汁の旨味とコクのある卵、地元産の米との食感のハーモニーが美味と好評。いづく茶屋では、すでに地域おこし協力隊のメンバーと協力して地元産の食材にこだわりの、これまでも丹波鹿肉コロッケ、くろまめきなど大納言あずきソフトなどを販売している。



PA水上で人気の丹波地どりの親子丼

●岡山● 「おかやま縁むすびネット」利用好調、新拠点も

岡山県 結婚希望者のマッチング支援拠点として同県では2017年5月にサポートセンターを設置。利用者も多く好評であることから、岡山市北区のセンターに続き2つ目の拠点を津山市に8月新設する。同センターでは岡山在住者や岡山での結婚を希望する20歳以上の独身者を対象に、コンピューターでのマッチング・引き合わせやセミナー、イベントを実施。活用には登録（登録料1万円）が必要で、自分のプロフィールや希望の相手を入力する。これまでに約1400人が登録、4組が結婚した。

●広島● 広島から平和創造に貢献する人材づくり

広島市 広島市立大学は2019年4月より「平和学研究学科」開設を発表。国公立大学での「平和研究学科」は全国初。平和主義の原点に立ち、平和創造の研究成果を発信できる研究者や、平和行政を推進できる公務員、国内外の紛争の分析視点と平和創造の方法を低減できるジャーナリスト、専門家らの養成を

目指す。授業では広島県の被爆体験を軸に核の脅威、歴史、軍事、平和外交等を学ぶなど、広島ならではの科目も用意されている。定員は10名、2年間の修士終了後には「平和学」の修士号も授与される。

●鳥取 ●大山開山1300年祭が始まる

米子市 山岳信仰だけでなく、近年はスキーやトレッキングなどのアクティビティの場としても人気の大山。奈良時代の養老2(718)年に出雲の国玉造りの依道^{よりみち}によって大山寺が開創してから、今年は開山1300年。これを記念して5~11月までの間、御輿行列、開創法要、秋季大祭、秋の縁日など「大山の祈り」と称する宗教的行事が開催される。ほかにも「大山からの恵み」をテーマにおもてなし料理の提供、地ビールの祭典、クラシックコンサート、1300本のたいまつ行列、カヤックや自転車での自然体験、満天の星を観賞、紅葉満喫ウォークなど約20イベントを計画。

●島根 ●地方銀行7行でデジタル化に向けて連携協定

松江市 松江市の山陰合同銀

行、池田泉州銀行、群馬銀行、四国銀行、千葉興業銀行、筑波銀行、福井銀行の地方銀行7行は、デジタル化を連携・協働するための連携協定「フィクロス・パートナーシップ」を締結し、支援会社の「株式会社フィクロス・デジタル」を共同で設立した。異業種からの参入、日銀のマイナス金利政策などによる厳しい環境のもと、地方銀行では新たな需要開拓、サービス向上のためデジタル化の推進による収益性向上が必須の課題となっている。前述の7行で協業、研究することによって、各行の負担軽減、新たな金融サービスの提供、単独行ではむずかしいデータの分析、利活用などに取り組む。

●山口 ●イギリスの高速鉄道向けの車両が公開

下松市^{くだまつ} 電車車両を製造する日立製作所笠戸事業所が5月19日、4年ぶりに一般公開された。東海道新幹線的主力車両N700A、イギリスの高速鉄道向け車両、沖縄都市モノレールの車両などが展示され、約6000人の鉄道ファンや親子連れでにぎわった。今回の一般公開は、日本の電車車両メーカーとして初めて

日立がイギリスに進出、昨年10月同社が製造した車両のイギリス高速鉄道での運行が始まったことを受けて実施。公開日には、車両を釣り上げて運ぶシャトルリフトの作業も披露され、入場者の大きな関心を集めた。

●香川 ●うどん作り体験の予約がウェブサイトで

香川県 香川県観光協会では、うどん作り、地元産のヒノキのキーホルダー作り、ガラス彫刻、讃岐和三盆干菓子作りなど香川県ならではの体験を予約できるウェブサイト^{ウェブサイト}の運用を開始した。うどん作り体験は高松市と琴平町の2地区から選ぶことができ、体験によって前日から3日前までの予約が可能。代金の一部はクレジットカードも使える。なお、体験のほかに、地元ガイドによる男木島や伊吹島のツアーもウェブサイトでからの申し込み可能で、今後、同協会催行の旅行商品も登録・販売する予定。 <https://yoyaku.my-kagawa.jp/>

●愛媛 ●四国を国際的なサイクリングの聖地に

愛媛県 「サイクリングアイランド四国」の実現、サイクリストの誘致

に向け、四国4県の推進協議会の会合が愛媛県で開かれた。4県で協力してコースの整備や経路案内ピクトの基本デザインの統一をすることなどが決定された。経路案内ピクトは5キロごとに設置を予定しており、迷いやすいところは矢印でわかるようにするなど具体的な施策も話し合われた。また、同協議会では今年度の事業として四国一周サイクリングマップを印刷し、11月に千葉県幕張メッセで開催される日本最大級のスポーツ自転車のフェスティバル「サイクモード2018」へ四国4県で共同出展し、マップを配布するなどPR活動も行う予定。

●徳島 ●赤ちゃんの駅増加中

徳島市 同市は乳幼児連れの子育て家庭が、外出時にオムツ替えや授乳などを気兼ねなく行なえるよう公共施設や民間の店舗などを「とくしま赤ちゃんの駅」として認定している。社会全体で子育て家庭を支援するという試みは2017年10年に開始、現在は市内74ヶ所に広がり、図書館やコミュニティセンターなどの公共施設、ショッピングモールやデパート、ホテルなども利用可能。

認定施設ではミルク用の湯を提供する場所もあるという。赤ちゃんの駅の目印は黄色いステッカーに赤ちゃんのイラスト、「とくしま赤ちゃんの駅」がデザインされている。

●高知● 廃校を活用した水族館へどうぞ

室戸市 室戸岬町で廃校となつた市立椎名小学校の校舎を活用して、4月下旬に「むろと廃校水族館」が開館した。廃校を利用した水族館は全国でも珍しい。鉄筋コンクリート3階建ての校舎には円形の水槽3基、小さな水槽約20基が設けられ、



廃校が水族館に変身。ウミガメなど1000匹の魚を見られる

約40種1000匹以上の魚類が飼育されている。日本近海に生息する魚類がほとんどだが、クロウミガメは全国でも展示している水族館はわずか。25mプールを再利用した水槽ではカメやサメなどが悠々と泳ぐ姿も見られ、子供達が歓声をあげている。

●福岡● ビールの排ガスで発電

福岡市 九州大学次世代燃料電池産学連携センターとアサヒグループホールディングはタッグを組み、ビールの製造過程で生まれる排水処理時のバイオメタンガスを利用して固体酸化物形燃料電池による長時間発電に成功、5月の第25回燃料電池シンポジウムで成果が発表された。バイオガスは地球に優しいガスといわれるが、不純物に多く含むことから、安定的な電力を生み出すことが難しいとされていた。しかし、今回の共同開発により長時間の発電が可能となり、不純物の影響も確認されていないことから、ビールの廃液に限らず他の食品でも活用可能な技術と考えられている。今後、1万時間の連続発電試験を行なう予定。

●佐賀● バイオマス技術にさらに磨きを

佐賀市 清掃工場や下水浄化センターなどから生じるバイオマス資源(生ゴミや家畜の排泄物、木くずなどの動植物から生まれた再生可能な有機性資源)をエネルギーや資源に循環させることに平成26年から取り組んでいる佐賀市は5月29日、オランダの政府機関・イノベーション・クォーターと技術協力を進める覚書を交わした。同機関はバイオマスの最先端技術を持ち、藻類培養からバイオマスやCO₂を利用したハウス栽培なども実践している。佐賀市は「バイオマス産業都市」として平成28年8月には日本初の清掃工場の排ガスから二酸化炭素を取り出し、産業利用することに成功。食品の安全性も確認され、現在は藻類培養施設に供給するなど、オランダとの提携でさらなる事業拡大を目指す。

●長崎● トラフグ「全雄」の養殖適性を試験

長崎県 同県は、長崎県総合水産試験場で市場ではメスより2割ほど高く取り引きされる白子を持つオスのトラフグのみを選択的に生産

する技術に成功。全雄の増産に向けて県内の9業者に養殖の適性試験を行なう決定をした。これらの養殖場には5月下旬から6月にかけて1業者あたり5000〜7000尾、5〜8センチの大ききの種苗が搬入され、業者は成長具合をチェックし長崎県総合水産試験場に報告する。平成31年10月頃から出荷し、市場評価を行う予定。ちなみに、同県はトラフグ養殖の全国一のシェアを誇る。

●大分● 世界温泉地サミット開催

別府市 「日本一の温泉県」と称する大分で、5月25日より3日間にあわつて世界初の「世界温泉地サミット」が開催。海外16ヶ国を含む国内外温泉施設の関係者約1000人が参加し、基調講演や、温泉活用による観光、医療や美容、エネルギーの3つのテーマについて議論を交わし、温泉と大分の魅力を世界に向けて発信した。別府市は、来年のラグビーワールドカップ日本大会開催前のキャンプ地としてニュージーランド、オーストラリア、ウェールズが滞在する。ラグビー選手が温

泉でフレッシュし、よさを自国で広めてもらうことも期待される。

●熊本 被災した熊本城の復旧工事進む

熊本市 平成28年4月、2度にわたって発生した地震で深刻な被害を受けた熊本城。重要文化財に指定された13の建物すべてが被害に見舞われ、復旧には20年近くの年月と600億円を超える総工費が見込まれている。復旧工事が進むなか、4月下旬に天守閣の天守にしゃち

ほこが取り付けられ、新しい熊本城のシンボルは被災した人たちを勇気づけた。天守の工事は2019年を目指して急ピッチで進められている。

また、縦に1列のわずかな石組みに支えられていた飯田丸五階櫓にも足場が組まれるなど、解体作業は着実に進んでいる。

●宮崎 シニアのためのスポーツと文化の祭典

宮崎市など 5月20日宮崎市内など県内の4自治体で「宮崎ねんりんピック」を実施。約3400人の参加者が、ラージボール卓球、ゲートボール、ボウリング、囲碁、将棋、健康マージャンなど計29競技に打ち込

んだ。参加資格は県内在住の60歳以上。なかには90歳を超えるシニアも元気にプレーを楽しんだ。高齢者の生きがいや健康づくりを目的として厚生労働省が主催したもので、秋には全国大会も行なわれる。今年は富山県の予定。

●鹿児島 日本人「ブドウ王」の名を冠したワインバー誕生

鹿児島市 市内の城山観光ホテルに長澤^{ながさわ}鼎の名を冠したワインバー「ザセラールN バロン・ナガサワ」がオープンした。長澤は幕末の薩摩藩士でイギリスに留学。のちにアメリカの宗教家トーマス・ハリスからワイン造りを受け継ぎ、カリフォルニア

ワイン誕生の功労者としても知られる人物。バー入口のワインセラーには長澤ゆかりのものを含め約170種類のワインを揃え、カウンターではワインに熟知したソムリエとの会話も楽しめる。なお、長澤が所有していたカリフォルニア州ソノマ郡のパラダイスリッジ・ワイナリーは2017

年秋の火災で被害を受けている。

●沖縄 地ビール「浮島ブルーイング」が稼働開始

那覇市 地ビールブームに沸く

今、那覇の市場「マチグワー」にクラフトビールの醸造所が誕生、6月から出荷を開始する。出荷するのはフルーティな香りが特徴のヴァイツェン、モルト感をそのままにすつぎり

とした味わいのブラウンエール、苦味、甘み、モルト感が堪能できるIPA（インディアアン・ペール・エール）の3種。7月には国際通り近くの水上店舗第二街区にタップルームを開業予定で、観光客も寄りやすい。(株)

アポロブルー社が昨年12月に免許を取得、4月より操業を開始した。

●アメリカ合衆国 タイムズスクエア「TOSHIBA」の広告が撤去

ニューヨーク 新年のカウントダウンがTV中継され、その様子を世界で10億人以上が視聴するといわれるニューヨーク・シティのタイムズスクエア。「ワン・タイムズスクエア・ビル」に掲げられていた「TOSHIBA」広告の撤去が5月に始まった。東芝が全米で最も注目を浴びるタイムズスクエアに広告を設置したのは2007年12月、日本企業としては初、LEDパネルスクリーンの大看板であった。今回東芝は経営再建の一環として、

広告の打ち切りに踏み切り、新年カウントダウンのスポンサーも降りることとなった。

●北極 世界を汚染するマイクロプラスチック

北極 4月ドイツなどの研究チー

ムから北極海の氷にもマイクロプラスチック（小さなプラスチックのかげら）の汚染が激しいことが発表された。マイクロプラスチックはプラスチック製品だけでなく、フリースに使われるポリエステルやナイロンなどの合成繊維、洗顔料などの化粧品、歯磨き粉にも含まれており、いくらか細かくなつても自然分解しないのが特徴。今回収集したサンプルには17種類のプラスチック粒子が含まれていることがわかった。海に漂うプラスチックは魚類の体内に取り込まれ、それを捕食する海鳥にも影響が及ぶなど、深刻な海洋汚染問題となっている。もちろん、人体への悪影響も懸念されている。すでにアメリカのテマパークなどでは紙のストローを採用し、欧州では皿といった使い捨てプラスチックの使用禁止を発表するなど世界的な取り組みに広がっている。